

令和6年度シラバス

(Iコース2年文系)

日本大学東北高等学校

目 次（Iコース2年文系）

学校シラバス	…	1	
Iコース2学年教育活動シラバス	…	2	3
論理国語	…	4	6
古典探究	…	7	10
日本史探究	…	11	14
世界史探究	…	15	17
倫理	…	18	21
政治経済	…	22	25
数学Ⅱ	…	26	29
数学B	…	30	32
体育	…	33	37
保健	…	38	41
英語コミュニケーションⅡ	…	42	44
論理・表現Ⅱ	…	45	47
家庭基礎	…	48	51
情報Ⅰ	…	52	54
総合的な探究の時間	…	55	57

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

1. 奉仕と思いやりの心を持とう 2. 新校舎を大切に学ぼう 3. 自ら学び、考え、道をひらこう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育、教科指導を計画的に推進し、学力の定着と向上を図り、生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し、生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し、幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に、学外からの出前講座、教員による校内講座を行い、幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し、グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で、英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で、英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に、ケンブリッジ大学研修を実施する。
自主的・主体的な学習への取り組みを通して、社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に、春期特別指導を実施する。 4 大学進学に向けて、各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して、生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して、人間的成長を促し、円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して、団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して、心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して、自主性や創造性、協働性を身に付けるとともに、仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して、広く芸術に触れ、親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて、自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに、安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画、防災マニュアル（安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル）を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練、および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業、ホームルーム活動を通じて、安全や健康について学習する。 4 交通安全教室、スマホ安全教室等を実施し、生徒の危機管理意識を育成する。

I コース 2 学年 教育活動シラバス

月	指導内容等	指導のねらい
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対面式・1 学期始業式 ・ ①進路ガイダンス ・ ①進路希望調査 ・ ①体育クラス及び強化部集会 ・ 健康診断、身体測定、歯科検診 ・ 春期特別指導 ・ 基礎学力到達度テスト ・ シェイクアウト訓練 ・ 個人面談 ・ 服装頭髪指導 ・ 学級懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校 2 年生への切り替え ・ 様々な学問分野の情報収集 ・ 進路を考える「力」の育成 ・ 生徒の自律、自覚の育成 ・ 健康維持増進の啓発 ・ 基礎学力到達度テストに向けた学力向上 ・ 学力向上への啓発 ・ 防災意識の向上と啓蒙 ・ 精神面・生活面・学習面の個別指導・情報把握 ・ 規範意識の高揚 ・ 保護者との情報共有及び連携
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒総会 ・ 自転車安全教室 ・ ①参観授業 ・ 春の交通安全登校指導，自転車点検 ・ ①学校生活アンケート ・ 1 学期中間試験 ・ スマホ安全教室 ・ 下宿訪問 ・ 身だしなみ向上週間 ・ ①英検 ・ ロハス探求テーマ募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動への自主的参加 ・ 自転車の運転に関するルール・マナーの確認 ・ 授業の公開及び保護者との連携強化 ・ 登校時の安全指導 ・ 生徒の悩み等の把握 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ スマホ使用に関するルール・マナーの確認 ・ 下宿生に対する生活の確認 ・ 自己管理の意識付け ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 工学部との高大連携教育
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣替え、身だしなみ向上週間 ・ ①校内体育大会 ・ ②進路ガイダンス ・ ①漢検 ・ ①数検 ・ ①献血 ・ 1 学期期末試験 ・ ロハス探求テーマ募集 ・ 思春期講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の変化の意識と、自己管理の意識付け ・ 行事を通して協働・協力する力を育む ・ 日本大学各学部の探究 ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 公共心の涵養、ボランティア体験 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 工学部との高大連携教育 ・ 自己を守るための情報提供及び予防啓発
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロハス探求テーマ説明会(理系) ・ アカシヤ祭 ・ 芸術鑑賞会 ・ 三者面談 ・ 実力診断テスト ・ 1 学期終業式 ・ 夏期進学講座 ・ 野球全校応援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工学部との高大連携教育 ・ 行事を通して協働・協力する力を育む ・ 芸術観賞を通じた、豊かな情緒・感受性の涵養 ・ 保護者との連携及び生徒の状況把握 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 1 学期のまとめ ・ 1 学期の学習内容確認と学力の定着 ・ 帰属意識を高め、愛校心を育む
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏期進学講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学期の学習内容確認と学力の定着

9	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・服装頭髪指導 ・②進路希望調査 ・②体育クラス及び強化部集会 ・スタディサポート、成果テスト ・ロハスクラスガイダンス(理系) ・ロハス探求ファーストコンタクト ・生徒会役員選挙 ・②参観授業 ・②学校生活アンケート ・秋の交通安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期のスタートを円滑にする準備 ・規範意識の高揚 ・生徒の進路希望状況の把握 ・生徒の自律、自覚の育成 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・ロハスクラスの理解と探究活動の推進 ・工学部との高大連携教育 ・生徒会活動への積極的な参加 ・保護者との連携 ・生徒の悩み等の把握 ・登校時の安全指導
10	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替え、身だしなみ向上週間 ・②校内体育大会 ・②英検 ・2学期中間試験 ・下宿訪問 ・授業評価アンケート ・②献血 ・ベネッセ総合学力テスト(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の意識付け ・行事を通して協働・協力する力を育む ・資格取得へのチャレンジ ・普段の学習及び学力の定着確認 ・下宿生に対する生活の確認 ・授業評価を通して客観的な視点を育む ・公共心の涵養、ボランティア体験 ・普段の学習及び学力の定着確認
11	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行 ・③進路ガイダンス ・身だしなみ向上週間 ・保護者対象進学説明会 ・②漢検 	<ul style="list-style-type: none"> ・探求学習や協働学習を通して、平和や他文化について理解を深めるとともに、自己管理能力を育む ・志望理由書の作成と具体的な進路目標の設定 ・自己管理の意識付け ・保護者との情報共有及び連携 ・資格取得へのチャレンジ
12	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ向上週間 ・2学期期末試験 ・工学部ミニOC(理系) ・2学期終業式 ・クリスマスフェスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の意識付け ・普段の学習及び学力の定着確認 ・工学部における学問分野の理解 ・2学期の総括 ・文化活動の発表
1	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期始業式 ・服装頭髪指導 ・③体育クラス及び強化部集会 ・ベネッセ総合学力テスト(1月) ・③英検 ・③漢検 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期のスタートを円滑にする準備 ・規範意識の高揚 ・生徒の自律、自覚の育成 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・資格取得へのチャレンジ ・資格取得へのチャレンジ
2	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学対策模試(2月) ・③学校生活アンケート ・②数検 ・ロハス探究プレゼン大会 ・予餞会 ・学年集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習及び学力の定着確認 ・生徒の悩み等の把握 ・資格取得へのチャレンジ ・探究のプロセスや発表方法を学ぶ ・3年生へ感謝を伝え送別し、帰属意識を高揚 ・2年生の総括指導及び次年度への意識付け
3	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期期末試験 ・春期特別授業、スタディサポート ・3学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習及び学力の定着確認 ・基礎学力到達度テストに向けた学力向上 ・1年間の総括

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
論理国語	3	2 学年	I コース全クラス

教科書名 標準 論理国語 (第一学習社)

副教材名 プロGRESS現代文総演習 標準編 (いいずな書店)

現代語練習帳ことのは (いいずな書店)

カラー版新国語便覧 アプリ版 (第一学習社)

1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	ガイダンス 進化が導き出した答え (稲垣栄洋)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習復習について ・ 週末課題の実施について ・ ことのは豆テストの実施について ・ 生物の進化における多様性について理解し、それを人間の生き方に照らして考えを深める。
	5	新しい地球観 (毛利衛)	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーサグラフ地図の特徴を捉え、筆者が述べる「新しい世界観」との関連について考察する。
	6	プロGRESS現代文を用いて演習 【1 学期中間試験】 数え方で磨く日本語 (飯田朝子)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体例をもとに日本語のものの数え方の性質や文化的特徴を理解し、日本語感覚を磨く。
	7	名所絵はがきの東西 (高階秀爾) プロGRESS現代文を用いて演習 【1 学期期末試験】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵はがきを例に筆者が東西の自然観をどのように捉えているかを読み取り、自分の考えを深める。
【課題・提出物】 授業ノート・プロGRESS現代文			
【1 学期の評価方法】			

定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 情けは人の…… (俵万智) 犬も歩けば棒に当たる (阿刀田高) 法に関わる文章を読み比べる	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中に示された言葉の正しい意味を知るとともに、言葉に対する筆者の姿勢を読み取る。 ・一つのことわざに複数の解釈を提示する文章を読んで、日本語の多様性について理解を深める。 ・関連するテーマの文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 ・二種類の実用的な文章を比較し必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。
	10 プロGRESS現代文を用いて演習 【2学期中間試験】	
	11 バラと通貨はどう違う？ (浜矩子) ヒトはなぜヒトになったか (長谷川眞理子)	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中で通貨と対比されているものの性質を把握し、筆者が述べる通貨の本質を理解する。 ・因果関係を解き明かしていく論理構成の手順を把握し、ヒトの進化の過程を理解する。
	12 プロGRESS現代文を用いて演習 【2学期期末試験】	
【課題・提出物】 授業ノート・プロGRESS現代文		
【2学期の評価方法】		
定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 共同性の幻想 (菅野仁) 2 鏡としての他者 (榎本博明) ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・「同調圧力」がはたらく社会的背景を理解し、現代における人間関係のあり方を考察する。 ・文章構造をもとに筆者の主張を読み取り、他者が自己に与える影響を考える。 ・実用文は場面や目的に応じた書き方が必要であることを理解する。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。
	3 プロGRESS現代文を用いて演習 【3学期期末試験】	
	【課題・提出物】 授業ノート・プロGRESS現代文	
【3学期の評価方法】		
定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)		
【年間の学習状況の評価方法】		
定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	定期試験・豆テスト
思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	定期試験・授業態度・提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通し積極的に他者や社会に関わったり、考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	授業態度・豆テスト・提出物

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

【予習】本文を通読しわからない語句や漢字があれば調べておく。

話題、筆者の主張、その根拠となる部分にマークをつけながら読む習慣をつける。
各段落の役割を意識しながら読む。

【復習】授業で学んだ内容を元に、問題演習形式で解答の仕方を定着させる。

各種模擬試験前後に対策・解説を行うことがある。

小説は副教材を用いて取り扱う。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
古典探究	3	I コース 2 学年	文理共通

教科書名 高等学校 標準 古典探究 (第一学習社)

副教材名 三訂版プロGRESS古典総演習標準編 (いいずな書店)

学ぶぞ古文と漢文 (尚文出版)

学ぶぞ古文と漢文 基本練習ノート (尚文出版)

カラー版新国語便覧 アプリ版 (第一学習社)

重要古文単語 315 (桐原書店)

1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	【一学期中間試験】授業時数 9～11 《古文》 説話(一)古今著聞集「小式部内侍が大江山の歌の事」	・著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 ・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を的確に捉える。
	5	和歌の修辞法 《漢文》 故事・寓話 韓非子「逆鱗に嬰る」 《古語単語豆テスト》 P36～P89 《週末課題》 プロGRESS古典総演習標準編 古文 2 作品・漢文 2 作品 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート	・和歌の修辞について理解を深める。 ・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・週末課題により読解力や基本的な文法、句形の知識を学び、実践力を身に付ける。 ・古語単語の豆テストにより、語彙力を身に付

		<p>【一学期期末試験】授業時数 12～14</p> <p>《古文》 随筆(一)徒然草「奥山に、猫またといふものありて」</p> <p>6 《漢文》 三国志の世界「水魚の交わり」</p> <p>《古文》 物語(一)伊勢物語「初冠」 《古語単語豆テスト》 P90～P129 《週末課題》 プログレス古典総演習標準編 古文2作品・漢文2作品</p> <p>7 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート 【夏休み中の課題】 プログレス古典総演習標準編 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート (古文：助詞 漢文：漢文句形)</p>	<p>ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・諸葛亮が劉備に進言した策について理解するとともに、両者の関係を把握する。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。
	<p>【課題・提出物】 日本大学付属高等学校等文芸コンクール創作作品・学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート プログレス古典総演習標準編</p>		
	<p>【1学期の評価方法】 定期テストの平均点 80%+平常点(授業態度・出席・単語テストの得点率・提出物)</p>		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>【二学期中間試験】授業時数 10～14</p> <p>《古文》 物語(一)伊勢物語「小野の雪」 敬語表現</p> <p>《漢文》 諸家の思想 孟子「仁は人の心なり」 「民の父母」</p> <p>《古語単語豆テスト》 P130～P175 《週末課題》 プログレス古典総演習標準編 古文2作品・漢文2作品</p> <p>学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古文における敬語について理解を深める。 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・『孟子』を読み、古代中国思想について理解する。 ・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。
	10		<ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方

	11	【二学期期末試験】授業時数 15～18 《古文》 説話(二)沙石集「児の知恵」	や考え方を深める。 ・七夕伝説の由来の一つとなった説話を読み、古代中国の人々の想像力と天に対する考え方に触れる。
	12	《漢文》 搜神記「織女」 老子「柔弱」 《古語単語豆テスト》 P176～P216 《週末課題》 プログレス古典総演習標準編 古文2作品・漢文2作品 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート 【冬季休業中の課題】 プログレス古典総演習標準編 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート	・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ・儒家と対立する道家の古典である『老子』を読み、古代中国思想について理解する。 ・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。
	【課題・提出物】 プログレス古典総演習標準編・学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート		
	【2学期の評価方法】 定期テストの平均点 80% + 平常点(授業態度・出席・単語テストの得点率・提出物)		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	【三学期期末試験】授業時数 20～22 《古文》 蜻蛉日記「泔坏の水」 《漢文》	・女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。
	2	説苑「後患を顧みず」 漢詩「絶句」「除夜弟妹に寄す」 《古語単語豆テスト》	・作品の成立背景や他作品との関係をふまえて、内容の解釈を深める。 ・古代における臣下の立場を理解するとともに、呉王に対する少孺子の説得の巧みさを読み取る。
	3	P218～P298 《週末課題》 プログレス古典総演習標準編 古文2作品・漢文2作品 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート 【春季休業中の課題】 プログレス古典総演習標準編 学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート	・逸話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げる。 ・漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。
	【課題・提出物】 プログレス古典総演習標準編・学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート等		

【3学期の評価方法】 定期テストの平均点 80% + 平常点 (授業態度・出席・単語テストの得点率・提出物)
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80% (年間 5 回の定期試験素点の平均点) 平常点：20% (各学期の平常点の平均点)

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・古語単語、古文文法の知識が身についている。 ・漢文訓読、句形の知識が身についている。 ・正しく文章を読解する基礎知識が身についている。 	豆テスト 定期テスト 提出物
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を理解し、本文の主旨や主張を正しく理解する。 ・本文の趣旨に沿って、自分なりの考えを述べるができる。 ・当時の社会のあり方を踏まえて、登場人物が置かれた状況を把握し、正確に感情などを捉えることができる。 	授業中の話し合い 発表 定期テスト 提出課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・予習、復習に取り組む学習習慣が身についている。 ・課せられた課題に取り組むだけでなく、文献やインターネットなどを用いて、当時の社会状況や考え方、価値観を調査する。 	授業中における活動 予習・復習 定期テスト 提出課題

4 学習サポート (事前・事後学習等について)

<p>古文・漢文も辞書や参考書を使って、必ず予習してから授業に臨むこと。</p> <p>古文なら用言の活用の種類と活用形、助動詞の文法的意味、重要な助詞について、予習段階で調べてノートに記入する。また辞書を用いて、全文の逐語訳にも取り組んでおく。</p> <p>漢文なら漢和辞典、ダブルマスターなどを使用し、書き下し文と口語訳に取り組んでおく。</p> <p>毎時間実施される古語単語テストでは、アプリ等を使用して、例文ごと暗記する習慣を身に付ける。</p> <p>週末課題で課せられる問題集は、ただ解くだけで満足せず、文中で使われた重要文法についてダブルマスターや辞書を用いて、正しい知識を習得する。文法書で調べるだけで満足せず、必ず演習問題などにも取り組み、解き方・考え方を定着させる。</p>

科目	単位数	対象学年	対象クラス
日本史探究	4	2 学年	I コース文系

教科書名 詳説日本史探求（山川出版社）

副教材名 図説日本史通覧 2024（帝国書院） ウィニングコンパス日本史の整理と演習（とうほう）

1. 科目目標

○我が国の歴史の展開を世界的視野に立って総合的に考察し、文化や伝統の特色について認識を深めるとともに、歴史的思考力を培い国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

○様々な歴史資料を通して、歴史について自ら主体的に学ぶ態度や方法を習得し、歴史事象について公正に判断する思考力や理解力を身に付ける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・人類学的観点から日本列島の生い立ちを理解する。 ・原始社会の人々の生活の変化を理解する。 ・農耕社会で何が変わっていったのかを考察する。 	
		第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の小国分立を中国の文献で理解する。 ・古墳文化の変遷と氏姓制度について理解する。 ・推古天皇・厩戸王・蘇我氏の政治を考察する。 	
	5	第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道	<ul style="list-style-type: none"> ・大化改新の理由を国内外情勢と関連づけ理解する。 ・白鳳文化の特色を律令体制と関連づけ理解する。 ・農民生活の困窮について理解する。 	
		1 学期中間試験 2. 平城京の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代における律令体制展開を理解する。 	
	6	3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教思想と天平文化の関連性について理解する。 ・平安京遷都後の政策の遂行について理解する。 	
		第4章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治	<ul style="list-style-type: none"> ・弘仁貞観文化が密教的文化であった事を理解する。 ・摂関政治の成立過程を認識する。 	
	7	2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> ・国風文化が日本独自の文化であることを理解する。 ・荘園制度の特徴を理解する。 	
		1 学期期末試験		
	【課題・提出物】			
	① 授業プリント・ノート提出			
② 視聴覚教材鑑賞に関する感想プリント提出				
【第1学期の評価方法】				
日史探究の素点平均(1 学期中間・期末)×0.8+平常点(課題・授業態度・課題提出等)×0.2=評点				

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	7	第5章 院政と武士の躍進 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権	<ul style="list-style-type: none"> ・院政政治や平氏政権の成立過程を認識する。 ・保元・平治の乱から歴史的転換を考察する。 ・鎌倉幕府の成立過程を認識する。 ・執権政治と武家社会の特色について理解する。 ・元寇と社会への影響を考察する。 ・鎌倉文化の特色について理解する。 ・室町幕府の成立過程を認識する。 ・日明貿易の特徴を理解する。 ・応仁の乱で幕府権威が失墜し下剋上の世になった事を理解する。 ・産業の発達及び室町文化について理解する。 ・東山文化がもたらした日本人の精神生活への影響を認識する。 ・下剋上と惣の発展を背景に戦国時代が始まった事を理解する。 ・戦国大名の領国支配について認識する。 ・織田信長の政治と人柄及び豊臣秀吉の全国統一過程を理解する。
	9	第6章 武家社会の成立 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会 3. 蒙古襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化	
	10	第7章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2 学期中間試験	
	11	2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化	
	12	4. 戦国大名の登場 第8章 近世の夜明け 1. 織豊政権 2 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】</p> <p>① 単元テスト(筆記式)等</p> <p>② 授業プリント・ノート提出</p> <p>③ 視聴覚教材鑑賞に関する感想プリント提出</p>			
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>日史探究の素点平均(2学期中間・期末)×0.8+平常点(課題・授業態度・課題提出等)×0.2=評点</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	第8章 近世の夜明け 2. 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> ・桃山文化の特色について理解する。 ・江戸幕府の成立過程と職制を理解する。 ・江戸幕府が長く権威を保てた理由を考察する。 ・幕府が鎖国に踏み切った原因を明らかにする。 ・近世社会の村と百姓のしくみについて理解する。 ・文治政治への転換原因を明らかにする。 ・農工具の発達で農業生産物が増加した事を理解する。 ・町人文化、幕府の教学としての儒学、特に朱子学について理解する。
	2	第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 5. 元禄文化	

	3 学期期末試験	
	【課題・提出物】 ① 冬期休業中の課題 ② 授業プリント・ノート提出 ③ 視聴覚教材鑑賞に関する感想プリント提出	
	【第3学期の評価方法】 日史探究の素点平均(3 学期期末)×0.8+平常点(課題・授業態度・課題提出等)×0.2=評点	
	【年間の学習状況の評価方法】 1. 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。 2. 評価の観点に基づき、授業を真剣に受けることを前提とした上で、具体的な評価は次のものを対象とする。 (1) 定期試験 (80%以内) テストは1 学期中間・期末、2 学期中間・期末、3 学期期末の合計5 回。いずれも記述式100 点満点とする (5 回×100 点) (2) 平常点 (20%以内) ※提出物の期限を守れなかった場合は減点の対象とする。 授業態度や提出物の内容などを総合的に判断する。	

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	歴史的事項に興味を持ち、自ら調べ、学び、考えるという目的意識や態度を持っている。	授業態度 定期考査 課題への取り組み
思考・判断・表現	日本の歴史における出来事について考察し、伝統や文化について過去と現在の関連について認識しているか。また、過去の出来事から今後のあり方について構想を立てる能力をもっているか、さらに、それを相手方に伝える能力や議論できる能力が養われている。	授業態度 課題への取り組み 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	日本史について、自らが考察・検証して、過去の事象を的確に認識し、それを未来に生かそうとする思考が形成されている。	単元テスト 課題への取り組み 授業態度

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

- 歴史の学習は、単なる暗記ではありません。過去の歴史に興味・関心を持って考察し、それを自分や自分を含む社会の中で活かしていくことが大切です。
- 教科書・副教材と各クラス共通の授業プリントを利用した講義形式の授業が中心となります。
- 教科書、副教材、授業プリントを忘れないようにしましょう。
- 授業の復習をしましょう。歴史は連続性のあるものです。復習をすることで、次に学ぶ歴史との関連性を理解することができます。
- 歴史の学習は興味を持つことから始まります。興味を持つためには、旅行などで訪問した場所で、資料(史料)となるものに接することが大切です。例えば、神社仏閣に行ったときにその歴史について考えてみる、街かどに建っている石碑を見てそこに刻まれていることを確かめてみるなどです。
- 興味を持ったら、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」「なぜ」「その結果」と考えを進め、論理的に考えましょう。
- 日本史を含めて、学問は常に進化しています。今まで、定説であったことが誤りであったと証明されることも多々あります。自ら、考察を進めましょう。その際には、ある事柄に対して仮説、反証(反駁)、検証という手法を駆使してみましょう。
- わからないことは、まずは自分で調べてみましょう。調べてもわからないことがあれば質問してください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
世界史探究	3	2 学年	I コース文系

教科書名 詳説 世界史探究 (山川出版)
副教材名 世界史B用語集 新詳世界史図説

1. 科目目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解する。
- ② 世界の歴史における文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。
- ③ 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	ガイダンス 先史の世界 第1部 第1章 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の学習内容と先史の世界をイメージする。 ・世界最古の文明を理解する。 ・インドの古代文明を理解する。 ・東アジアの古代文明を理解する。 ・アメリカ大陸の古代文明を理解する。
	5	第2章 1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 1 学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の内陸アジアの様子を理解する。 ・中国の王朝の歴史を理解する。
		3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・魏晋南北朝時代の中国を理解する。 ・隋唐時代の中国を理解する。
	6	第3章 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教定着 3 東南アジア世界の形成と展開 第4章 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 1 学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・インドの古代王朝を理解する。 ・インドの古典文化を理解する。 ・東南アジアの風土と王朝を理解する。 ・古代西アジア世界の様子を理解する。

<p>【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課題を求める。</p>
<p>【第1学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点（授業態度と課題・提出物）を20%として評価する。</p>

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	成果テスト	
		2 ギリシア人の都市国家	・古代ギリシア世界の様子を理解する。
		3 ローマと地中海支配	・古代ローマ世界の様子を理解する。
		4 キリスト教の成立と発展	・ローマ帝国下でのキリスト教の拡大の様子を理解する。
		第5章	
	10	1 アラブの大征服とイスラーム政権	・イスラーム教の成立と拡大の様子を理解する。
		2 学期中間試験	
		2 ヨーロッパ世界の形成	・中世ヨーロッパの成立を理解する。
		第II部 第6章	
	11	1 イスラーム教の伝播	・イスラーム世界の拡大を理解する。
		2 西アジアの動向	・イスラーム国家の繁栄を理解する。
		第7章	
	1 西ヨーロッパの封建社会の展開	・中世ヨーロッパ世界の様子を理解する。	
	2 東ヨーロッパ世界の展開		
12	3 西ヨーロッパ世界の変容	・ビザンツ帝国とスラブ人を理解する。	
	2 学期期末試験	・中世ヨーロッパ世界の変化を理解する。	

<p>【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課した課題と夏課題の提出を求める。</p>
<p>【第2学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点(授業態度と課題・提出物、成果テストの結果)を20%として評価する。</p>

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	4 西ヨーロッパの中世文化	・キリスト教中心の文化を理解する。
		第8章	
		1 アジア諸地域の自立化と宋	・唐滅亡後、宋とその周辺を理解する。
		2 モンゴルの大帝国	・13世紀のユーラシア大陸を理解する。

2	第9章 1 アジア交易世界の興隆 2 西欧の海洋進出と米大陸の変容 第10章 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域 3学期期末試験	る。 ・明朝時代の中国とその周辺を理解する。 ・大航海時代と新大陸征服を理解する。 ・近代イスラーム諸国の成立と繁栄の様子を理解する。 ・清朝時代の中国とその周辺を理解する。
【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課題を求める。		
【第3学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点（授業態度と課題・提出物）を20%として評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期・2学期・3学期の評価を総合的に評価する。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知能・技能	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・小テスト ・定期テスト
思考力・判断力・表現力	先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・小テスト ・授業ノート ・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	世界史に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法の相談、学習方法の指導。 ・授業内容に関する質問対応。 ・自学プリントの作成と配布。 ・確認プリントの配布または確認テストの実施。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
倫理	2	2 学年	1 コース文系

教科書名 高等学校 新倫理 (清水書院)
 副教材名 最新倫理資料集 テオリア (第一学習社)
倫理 用語集 新版 (清水書院)
ウィニングコンパス 公共・倫理の整理と演習 (とうほう)

1 科目目標

- 自我の目覚める高校時代は人間や社会について関心を持ち、人生観・世界観についての思索を深め、人間形成への大きな一歩を踏み出す時期である。その時期に「目に見えない大切なもの」を求め、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探求し、生徒自身が世界観・人生観を形成していく。
- 思想は、歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、歴史的・有機的な関連性がある。先哲の思想を学ぶことで、物質文明の繁栄が謳われる反面、人間性や人間の尊厳の喪失が指摘される今日の社会において、人間とは何か、自分はどうかあるべきか深く探求していく。
- 教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、大学入学共通テストに対応できる力を養っていく。
- 演習問題をこなし、実践力を養う。(定期試験の中にも大学入学共通テスト(旧センター試験)や私大の過去問題を活用する)
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるようにコミュニケーション能力を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第3編 現代をかたちづくる倫理 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究 第1節 人間の尊厳 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界	○人間尊重の光と影を見据えながら、真の意味での人間の尊厳について考え、理解する。 ○モンテーニュやパスカルの思想を通して、モラリストが後の思想に与えた影響を理解する。 ○ベーコン、デカルトの思想を正しく理解する。 ○近代科学が成立する背景にルネサンスや宗教改革が大きな役割を果たしていることを理解する。
	5	第2節 真理の認識—経験論と合理論 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重—ベーコン 3 理性の光—デカルト	
	6	1 学期中間試験	

7	<p>第3節 民主社会と倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会契約説と啓蒙思想 2 人格の尊厳と自由—カント 3 自己実現と自由—ヘーゲル 4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福 <p>1 学期期末試験</p>	<p>○ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説の違いを理解する。</p> <p>○カント・ヘーゲル・功利主義・プラグマティズムの思想を手がかりに、自己実現と幸福について考え、理解する。</p>
<p>【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>		
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	<p>9</p> <p>第4節 現代社会と個人</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資本主義社会への批判 2 人間存在の地平—実存主義 3 世界と存在そのものへ—現象学 4 公共性と正義 5 社会参加と他者への奉仕 <p>第5節 近代の世界観・人間観の問いなおし</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理性主義への反省 2 言語論的展開 3 科学観の転換 <p>10</p> <p>第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>第1章 日本の風土と精神文化</p> <p>2 学期中間試験</p>	<p>○マルクス・エンゲルスの思想を、それ以前の社会主義思想と比較することで、その内容を考察し、理解する。</p> <p>○先哲の思想を手がかりに、個人のあり方と社会との関わりについて考える。</p> <p>○我々の生きている日本という風土が、人と自然の関わりにおいて持つ特殊性について理解する。</p> <p>○日本人として、伝統的文化を振り返りながら、そこに込められた人々の知恵を自覚する。</p> <p>○最澄・空海思想の相違点と類似点を正しく理解する。</p> <p>○平安仏教と鎌倉仏教の違いを考察し、正しく理解する。</p>

	11 第3節 近世社会の思想 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学	○中国で生まれた儒教が、外来思想として移入し、その後江戸時代に儒学として日本化され、現代の生活に影響を与えていることを正しく理解する。
	12 3 古学 4 国学と日本文化 5 近世庶民の思想 6 近代的国家への道 2 学期期末試験	
【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）		
【2学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。 ②学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 第2章 日本の近代化と人々の生き方 第1節 西洋近代精神の摂取 1 啓蒙思想家の活動	○幕末・明治期に西洋思想を積極的に摂取し、「文明開化」に努めた思想家たちの行動を通して、日本の「近代化」の成り立ちを理解するとともに、現代に影響を与えている思想について考察する。 ○近代日本を代表する哲学者・文学者等の思想を学ぶことで、現代の我々にどのような影響を与えているかを理解する。
	2 2 国家と個人の衝突 第2節 近代的個人の自覚 1 近代的自我の成立と個人主義 2 社会改革の思想	
	3 第3節 主体的な生き方と価値観の模索 1 近代日本の哲学者 2 近代日本の思想傾向への反省 3 現代日本と私たちの課題 第5編 現代における諸課題の探究 第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 1 環境と倫理 2 生命と倫理 3 科学技術の発展とその課題	○環境倫理、生命倫理の分野を学ぶことで、現代における倫理的課題について理解する。 ○文化・宗教等の違いを通して、国際社会における多様性と平和共存について考える。
	第2章 社会や文化にかかわる諸課題 1 文化や宗教の多様性と倫理 2 国際平和と人類の福祉	

3 学期期末試験
<p>【課題・提出物】 期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>
<p>【3 学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>各学期の中間試験は、定期試験の素点である。 総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。 ○平常点は以下を踏まえて、20%以内で算出する。</p> <p>①倫理に対する興味と関心 ②授業に対する意欲と関心 ③課題等への取組み（宿題等） ④年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）</p>

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	倫理の授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。また、授業で得た知識をもとに、現実の事象を倫理的に解き明かすことができるようにしている。	定期試験・小テスト・提出物
思考・判断・表現	先入観にとらわれず、公平・公正な立場から物事を考察する力を伸ばし、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・提出物
主体的に学習に取り組む態度	倫理に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、自分とは異なる考えを持つ他者を理解する姿勢を身につけようとしている。	授業態度・小テスト・提出物

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>社会科（倫理）は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、倫理は過去に生きた人々の思想を知るだけではない。語句の暗記だけでなく、背景などにも関心を抱き、身近に感じることで理解が深まっていく。そのためには、授業を受け身で臨むのではなく、自発的に調べ、わかりにくいところがあれば、お互いに質問しあい、理解することに努めてほしい。</p>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
政治・経済	2	2 学年	I コース文系

教科書名 高等学校 政治・経済 (清水書院)
 副教材名 ウイニングコンパス 公共・政経 整理と演習 (とうほう)
最新 政治・経済資料集 2024 (第一学習社)
用語集 政治経済 新版 (清水書院)

1 科目目標

- 情報化社会、技術革新の時代と言われ、今日の私たちの生活環境の変動にはめまぐるしいものがある。その一方で、第2次世界大戦後私たちの生活を規定していた「政治」「経済」などの様々な枠組みが有効に機能しなくなり、見直しが余儀なくされる場面も多々見られるようになってきている。こうした激動の時代に、私たちはどのように考え、何を選択し、いかに行動するかが問われている。政治・経済の授業を通して、これからの社会の中核として生きる高校生が主体的に考え、自分の意見をしっかり持ち、自分の言葉で表現できる力を養っていく。
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるようにコミュニケーション能力を養う。
- 大学入学共通テスト対策として、教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、各種試験に対応できる力を養っていく。
- 新聞・ニュースの活用。大学入学共通テスト・私大入試・対外模試では時事問題として現代社会の出来事が問われることが多い。授業の中で新聞・ニュースを取り入れていくことで、論理的思考を養い、各種試験に対応できるような力を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則	○基本的人権が権利として認められるようになった過程と民主政治の歩みを理解する。また法の支配の意味を理解する。
		1 政治とは何か	
		2 法とは何か	
		3 現代民主政治へのあゆみと基本原則	
	5	4 議会制民主主義と世界の政治体制 5 日本国憲法の成立と基本原則	
	6	1 学期中間試験	○日本国憲法における第9条の意味を理解する。 また、日本の安全保障と核兵器に関して歴史的な経緯を踏まえて考察する。
	7	6 基本的人権と新しい人権 7 平和主義と安全保障	

	<p>8 日本の政治機構 9 政党政治と選挙制度 10 地方自治</p> <p>1 学期期末試験</p>	<p>○国権の最高機関である国会の仕組みと役割を理解する。</p> <p>○日本の議院内閣制について正しく理解し、内閣の仕事と役割を理解する。</p> <p>○裁判所の仕組みと役割について理解し、問題点を考察する。</p> <p>○地方自治の本旨と仕組みについて理解する。</p> <p>○18歳からの選挙権が実現したことから、政治や選挙の仕組みを理解し、政治参加の在り方を考察する。</p>	
<p>【課題・提出物】 期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>			
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点(20%以内で算出) 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テストの成績を評価する。</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第2章 現代経済のしくみと日本	<p>○金融や財政の仕組みを理解し、現代社会で実際に起こっている経済情勢やニュース等への興味・関心を高め、社会人としての必要な知識の獲得を目指す。</p> <p>○国際社会における主権国家の意味を理解し、戦後の国際政治の動向について、冷戦を中心に学習し、真の平和とは何かについて考察する。</p>
		7 日本経済のあゆみ	
		8 企業の活動と役割	
		9 労働問題と労働環境の変化	
	10	10 社会保障制度の充実	
		11 農業と食料問題	
		2 学期中間試験	
		第2編 現代の国際政治・経済	
		第1章 現代の国際社会と政治	
	11	1 国際社会の成立と国際法	
	2 国際連合と国際協力		
	3 国際社会の変遷と動向		
	4 国際紛争と軍備管理		

12	<p>第2章 現代の国際社会と経済</p> <p>1 国際経済のしくみ</p> <p>2 国際収支と為替</p> <p>3 国際協調と国際経済機関の役割</p> <p>4 グローバル化と国際経済</p> <p>2 学期期末試験</p>	<p>○現代の国際社会と経済について、しくみや原理を正しく理解し、国際社会における日本経済の果たす役割を考察する。</p>
<p>【課題・提出物】</p> <p>中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>		
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績</p> <p>教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト、(旧)センター試験の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>② 学習態度の平常点（20%以内で算出）</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テストの成績を評価する。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	<p>1 第3章 国際社会の諸課題</p> <p>1 グローバル化する世界のリスクとは何か？</p> <p>2 2 難民問題に解決策はあるか？</p> <p>3 3 国際経済格差の是正に国際社会はどう取り組むか？</p> <p>4 4 技術革新は世界をどう変えたか？</p> <p>5 5 地球環境を守る資源・エネルギー開発とは？</p> <p>3 学期期末試験</p>	<p>○国際社会における諸課題を多角的・多元的に考察し、持続可能な社会を作り上げるために必要な知識を獲得する。</p>

<p>【課題・提出物】 期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>
<p>【3学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、センター試験の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テストの成績を評価する。</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】 学期毎の評価には平常点が含まれる。（20%以内で算出）</p> <p>○平常点は以下を踏まえて、20%以内で算出する。</p> <p>①政治・経済に対する興味と関心 ②授業・課題等に対する意欲と関心 ③課題等への取組み（宿題等）</p> <p>年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・ワークの確認）</p>

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	政治・経済の授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。また、授業で得た知識をもとに、現実の事象を論理的に解き明かすことができるようにしている。	定期試験・提出物
思考・判断・表現	先入観にとらわれず、公平・公正な立場で物事を考察する力を伸ばし、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・提出物
主体的に学習に取り組む態度	政治・経済に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、自分とは異なる考えを持つ他者を理解する姿勢を身につけようとしている。	授業態度・提出物

学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>○分からない所は、分からないままにするのではなく、積極的に質問してほしい。知らないことは恥ずかしいことではない。理解できない所、つまづいている所があれば、早めに解決していきましょう。</p> <p>○問題集（ワークブック）資料集を有効に活用し、自主的に取り組みましょう。ワークブックの提出は求めませんが、取り組んでいる人と取り組まない人の差は一目瞭然です。</p> <p>○社会科は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、語句の暗記だけでなく、抽象的なものを具体的なものに、具体的なものを抽象的に置き換えることで、身近に感じることができ理解力が深まる。そのためには授業を受け身で臨むのではなく、自発的に調べ、わかりにくいところがあれば、お互いに質問しあい、理解することに努めてほしい。</p>

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅱ	4単位	2年	Iコース文系

教科書名 新編 数学Ⅱ (啓林館), 新編 数学B (啓林館)
 副教材名 新課程 基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B (数研出版)
練習ドリル 数学C [ベクトル] 標準編 (数研出版)

1. 科目目標

- 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方（論理的思考）を身に付ける。
- 答え（結果）だけではなく、解く過程を数字や文字を用いて表現できる能力を養う。
- 発展的・研究的内容にも取り組み、自ら気づき、学びとる姿勢（探求型学習）を身に付ける。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 5	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 (7) 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行・垂直	・座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことを学習する。 ・座標平面上の直線を方程式で表し、それを2直線の位置関係などの考察に活用することを学習する。
		第2節 円 (6) 1 円の方程式 2 円と直線	・座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用することを学習する。
		1学期中間試験 ・円の応用問題 (5)	・様々な応用問題を学習する。
		第5章 指数関数と対数関数 第2節 対数と対数関数 (10) 1 対数 2 対数関数 3 常用対数	・対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることを学習する。 ・対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用する力を育成する。 ・常用対数の理解を通じて、対数関数の有用性を学習する。
		1学期期末試験	
		【課題・提出物】 ○ 副教材の問題集、および、追加問題を課題とする。(原則プリント形式) ① 途中式を記述する ② 自己採点を行う ③ 不正解の問いを解きなおす	
		【第1学期の評価方法】 ○ 定期試験の成績 (80%)	

	1学期中間試験，1学期期末試験の計2回 ○ 平常点（20%） 課題への取り組み，確認テストの成績，および，授業への出席や意欲・積極性		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 一般角と三角関数（9） 1 一般角 2 弧度法 3 一般角の三角関数 4 三角関数の相互関係 5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式・不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方や扇形の面積の求め方などについて学習する。 ・三角関数について，相互関係などの基本的な性質や周期性をもつそのグラフの特徴について学習する。 ・三角関数を用いた，方程式・不等式の解を求めることを学習する。
		10	第2節 三角関数の加法定理（6） 1 三角関数の加法定理 2 2倍角の公式 3 三角関数の合成
		2学期中間試験	
11		数学Ⅱ 第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数（6） 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 接線の方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・微分係数や導関数を理解し，関数の定数倍，和及び差の導関数を求めることを学習する。
		第2節 導関数の応用（5） 1 関数の値の増加・減少 2 方程式・不等式への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ，グラフの概形をかくことを学習する。 ・グラフの概形を利用して，方程式の解などの考察に活用することを学習する。
		第3節 積分（8） 1 不定積分 2 定積分 3 面積と定積分	<ul style="list-style-type: none"> ・不定積分及び定積分を理解し，関数の定数倍，和及び差の不定積分や定積分を学習する。 ・定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることを学習する。
12		2学期期末試験	
		【課題・提出物】 ○ 副教材の問題集，および，追加問題を課題とする。（原則プリント形式） ① 途中式を記述する ② 自己採点を行う ③ 不正解の問いを解きなおす	
		【第2学期の評価方法】 ○ 定期試験の成績（80%）	

	2学期中間試験，2学期期末試験の計2回 ○ 平常点（20%） 課題への取り組み，確認テストの成績，および，授業への出席や意欲・積極性		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 2	・微分法・積分法の演習（4） <u>数学B</u> 第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列（8） 1 数列とその項 2 等差数列 3 等比数列	・様々な応用問題を学習する。 ・簡単な数列 $\{a_n\}$ について， n と a_n との対応関係に着目して，数列の一般項の意味を学習する。合わせて，初項，第 n 項，末項，項数などの基本用語を学習する。 ・等差数列と等比数列の一般項を求め，更に第 n 項までの和を求めることを学習する。
		第2節 いろいろな数列（6） 1 いろいろな数列の和と和の記号 Σ 2 数列の和と一般項	・和の記号 Σ を用いて，数列の和を求めることを学習する。 ・自然数の累乗の和の公式を身につけ，記号 Σ をもちいて，いろいろな数列の和の計算ができることを学習する。 ・階差数列を理解し，階差数列が等差数列や等比数列になるような簡単な数列を学習する。
		<u>数学II</u> 第3章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域（6） 1 軌跡 2 不等式の表す領域	・図形を与えられた条件をみたす点の集合としてみる考えの理解を通じて，軌跡や領域について学習する。 ・与えられた条件から軌跡を求めたり，不等式の表す領域を求めたり，領域を不等式で表したりすることを学習する。
	3	3学期期末試験	
【課題・提出物】 ○ 副教材の問題集，および，追加問題を課題とする。（原則プリント形式） ① 途中式を記述する ② 自己採点を行う ③ 不正解の問いを解きなおす			
【第3学期の評価方法】 ○ 定期試験の成績（80%） 3学期期末試験の計1回 ○ 平常点（20%） 課題への取り組み，確認テストの成績，および，授業への出席や意欲・積極性			
【年間の学習状況の評価方法】 ○ 定期試験の成績（80%）（年間5回の定期試験の成績） ○ 平常点（20%） （年間の「課題への取り組み，確認テストの成績，および，授業への出席や意欲・積極性」）			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	授業の内容を理解し，活用することで問題を解くことができる。	授業態度 課題 定期試験等
思考・判断・表現	問題を読み，解き方の考察ができる。また，授業で得た知識を活用し，解答を表現することができる。	授業態度 課題 定期試験等
主体的に学習に取り組む態度	数学に興味・関心を持ち，積極的に授業に参加することができる。	授業態度 課題

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p><授業について></p> <p>① 数学Ⅱ・数学Bの学習について</p> <p>1学年と比較し，扱う公式が増加します。公式を覚えることは必要ですが，どんな問題でどの公式をどのように使うのかを理解することが必要です。</p> <p>日々の積み重ねが大切です。課題をペースメーカーとして自宅における予習・復習を行いましょう。</p> <p>② iPadの利用</p> <p>iPadを利用した学習活動を展開していきます。</p> <p>③ 学び合い【アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）】</p> <p>授業中に，演習の時間を設けます。積極的に「学び合い」を行いましょう。わからないところを友人や教員に質問をする（問題解決に向けた主体的・対話的な学び）。</p> <p>自分が理解し解けた問題は，友人に教えましょう。内容の定着度が上がります。（対話的で深い学び）</p> <p><課題について></p> <p>授業進度に合わせて，課題を配布します。授業内容の確認や定着を図るためには，自ら考えて「やってみる」ことが大切です。また，わからない問題は，友人や教員に質問して，授業進度に合わせて，解決できるようにしましょう。</p>
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学B	2単位	2年	Iコース文系

教科書名 新編 数学Ⅱ (啓林館), 新編 数学B (啓林館)
 副教材名 新課程 基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B (数研出版)
練習ドリル 数学C [ベクトル] 標準編 (数研出版)

1 科目目標

- 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方（論理的思考）を身につける。
- 答え（結果）だけでなく、解く過程である「解答」を通して言語表現力を養う。
- 発展的・研究的内容にも取り組み、自ら気づき、学びとる姿勢（探究型学習）も身につける。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4 5	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 (6) 1 0や負の整数の指数 2 指数の拡張 3 指数関数	・指数を正の整数から有理数へ拡張することを学習する。 ・指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用することを学習する。	
		1学期中間試験		
		6	・指数関数の演習 (4)	・様々な応用問題を学習する。
		6	第2節 対数と対数関数 (3) 1 対数 2 対数関数 3 常用対数	・数学Ⅱの授業内容の演習を行い、学習内容を身につける。
			1学期期末試験	
			【課題・提出物】 ○ 副教材の問題集、および、追加問題を課題とする。(原則プリント形式) ① 途中式を記述する ② 自己採点を行う ③ 不正解の問いを解きなおす	
【第1学期の評価方法】 ○ 定期試験の成績 (80%) 1学期中間試験, 1学期期末試験の計2回 ○ 平常点 (20%) 課題への取り組み, 確認テストの成績, および, 授業への出席や意欲・積極性				
	月	学習内容	学習のねらい	
2 学	9	数学B 第2章 統計的な推測	・確率変数とその分布, 統計的な推測について理解し, それらを不確定な事象の考察に活用する	

期	10	第1節 確率分布 (6) 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値 3 確率変数の分散と標準偏差	ことを学習する。 ・確率変数の期待値 (平均), 分散, 標準偏差について理解し, 確率分布の特徴を学習する。
		2学期中間試験	
	11	第1節 確率分布 (4) 4 確率変数の和の期待値と分散 5 二項分布 第2節 正規分布 (5) 1 連続的な確率変数 2 正規分布	・二項分布を学習する。 ・正規分布を理解し, 身長計測などの具体的な事象に活用することを学習する。 ・母平均の推定, 母比率の推定など, 標本調査を学習する。
	12	2学期期末試験	
【課題・提出物】 ○ 副教材の問題集, および, 追加問題を課題とする。(原則プリント形式) ① 途中式を記述する ② 自己採点を行う ③ 不正解の問いを解きなおす			
【第2学期の評価方法】 ○ 定期試験の成績 (80%) 2学期中間試験, 2学期期末試験の計2回 ○ 平常点 (20%) 課題への取り組み, 確認テストの成績, および, 授業への出席や意欲・積極性			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	第3節 統計的な推測 (6) 1 母集団と標本 2 推定 3 仮説検証	・母平均の推定, 母比率の推定など, 標本調査を学習する。
	2	数学B 第1章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 (6) 1 漸化式 2 数学的帰納法	・数列の漸化式の意味を学習する。 ・1次の形の隣接二項間の漸化式で表された数列について, 一般項の求めかたを学習する。
	3	3学期期末試験	
	【課題・提出物】 ○ 副教材の問題集, および, 追加問題を課題とする。(原則プリント形式) ① 途中式を記述する ② 自己採点を行う ③ 不正解の問いを解きなおす		
【第3学期の評価方法】 ○ 定期試験の成績 (80%) 3学期期末試験の計1回 ○ 平常点 (20%)			

課題への取り組み，確認テストの成績，および，授業への出席や意欲・積極性
【年間の学習状況の評価方法】 ○ 定期試験の成績（80％）（年間5回の定期試験の成績） ○ 平常点（20％） （年間の「課題への取り組み，確認テストの成績，および，授業への出席や意欲・積極性」）

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	授業の内容を理解し，活用することで問題を解くことができる。	授業態度 課題 定期試験等
思考・判断・表現	問題を読み，解き方の考察ができる。また，授業で得た知識を活用し，解答を表現することができる。	授業態度 課題 定期試験等
主体的に学習に取り組む態度	数学に興味・関心を持ち，積極的に授業に参加することができる。	授業態度 課題

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p><授業について></p> <p>① 数学Ⅱ・数学Bの学習について</p> <p>1学年と比較し，扱う公式が増加します。公式を覚えることは必要ですが，どんな問題でどの公式をどのように使うのかを理解することが必要です。</p> <p>日々の積み重ねが大切です。課題をペースメーカーとして自宅における予習・復習を行いましょう。</p> <p>② iPadの利用</p> <p>iPadを利用した学習活動を展開していきます。</p> <p>③ 学び合い【アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）】</p> <p>授業中に，演習の時間を設けます。積極的に「学び合い」を行いましょう。わからないところを友人や教員に質問をする（問題解決に向けた主体的・対話的な学び）。</p> <p>自分が理解し解けた問題は，友人に教えましょう。内容の定着度が上がります。（対話的で深い学び）</p> <p><課題について></p> <p>授業進度に合わせて，課題を配布します。授業内容の確認や定着を図るためには，自ら考えて「やってみる」ことが大切です。また，わからない問題は，友人や教員に質問して，授業進度に合わせて，解決できるようにしましょう。</p>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	2	2	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート（大修館書店）

1 教科目標

- | |
|--|
| <p>(1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身につける。</p> <p>(2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。</p> |
|--|

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<p>集団行動</p> <p>① 集合・隊形</p> <p>② 方向変換・列の増減</p> <p>体づくり運動・体育理論（通年で行う）</p> <p>(1) 体づくり運動</p> <p>①体ほぐしの運動</p> <p>②実生活に生かす運動の計画</p> <p>(2) 体育理論</p> <p>スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次）</p> <p>運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次）</p> <p>豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次）</p> <p>陸上競技</p> <p>①短距離走</p> <p>②持久走</p>	<p>集団の一員として迅速に、かつ安全に行動する力を身に付ける。</p> <p>①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。</p> <p>②健康に生活をするための体力の向上，運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。</p> <p>・以下4項目に関し，体育実技の実施と関連させながら学習する。</p> <p>①スポーツの歴史的発展と多様な文化</p> <p>②現代スポーツの意義や価値</p> <p>③スポーツの経済的效果と高潔さ</p> <p>④スポーツが環境や社会にもたらす影響</p> <p>・1年次までの学習を踏まえて，記録の向上や競争の楽しさを味わう。</p> <p>・ルールマナーを大切にし，役割を積極的に引き受け，自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む。</p>
	5	<p>スポーツテスト（新体力テスト）</p> <p>種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立 ち幅跳び・ハンドボール投げ</p>	<p>・毎年継続して記録する，スポーツテスト種目の自己目標達成及び記録向上を目指す。</p>

6	<p>ハンドボール</p> <p>①オリエンテーション ルールや用具設備の説明</p> <p>②ボール慣れ パス回し シュート 簡易ゲーム</p>	<p>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ,生涯スポーツに繋がる土台を養う。</p> <p>・動画を視聴しながら歴史やルール・用具設備について理解する。</p>
7	<p>③役割や戦術をふまえたゲーム それぞれのポジションの役割 ディフェンスの仕方</p> <p>④スキルテスト</p> <p>⑤知識理解を確認するテスト</p>	<p>・ボールの大きさに慣れスムーズなパスキャッチ・パス回しができるようにする。</p> <p>・ランニングシュート・ステップシュート・ジャンプシュートなどさまざまなシュートが打てるようになる。</p> <p>・ゴールキーパーやコートプレイヤーの役割を理解する。</p> <p>・ゾーンディフェンスにおける攻防の仕方を理解する。</p> <p>・実態に応じたスキルテストを行う。</p> <p>・ルールや用具・施設設備に関するペーパーテストを行う。</p>
<p>【課題・提出物】なし</p>		
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>①実技試験（60%）</p> <p>ハンドボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルテストによる評価 ・ペーパーテストによる評価 <p>スポーツテスト</p> <p>②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し,準備や片付けも協力してできる ・正しい服装で授業へ参加できている ・ルール等の確認テスト 		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	スポーツテスト(新体力テスト) 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ 陸上競技(長距離走) ①ジョギング ②持久走	・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。 ・自分の持っている体力を知り日常の運動習慣を向上させる。 ・体づくり運動と共に心肺機能向上を目的とする。
	10	バスケットボール ① 状況に応じたボール操作 シュート パス ドリブル	・防御をかわして相手陣地やゴール付近にボールを運ぶことができる。 ・味方が作り出した空間にパスを送ることができる。 ・空いた空間に向かってボールをコントロールして運ぶことができる。
	11	② 戦術	・仲間と連携して相手ゴール近くへ侵入する攻撃方法と、その動きに対応して空間を埋めるなどの防御の動きで攻防を展開することができる。
	12	③ ゲーム 試合方法やルールを工夫し、試合を行う。	・ゲームを通して仲間と協力し合う楽しさや喜びを味わうことができる。 ・審判や運営に積極的にかかわり、仲間と協力してゲームを進めることができる。
		バドミントン ① グリップ・リストスタンド 用具の扱い方 ② ストローク	・グリップの握り方や、手首の使い方について理解する。 ・フォアハンド・バックハンドの正しいフォームを習得し、ラケットの中央でシャトルを捉える。
【課題・提出物】なし			
【第2学期の評価方法】			
① 実技試験(60%) ・バスケットボール シュート、パス、ドリブル等のスキルテストによる評価。 ・仲間と協力し公正なゲームができる。			
② 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	バドミントン	サービス時のルールを理解させロング、ショート
	2	③ サービス ④ ルールの理解 ⑤ ラリーの組み立て方	サービスを使い分けるようにする。 基本的なルールを理解する。 ハイクリアー、ドロップなどの球種を理解しゲームのなかの攻防に組み入れることができるようにする。
	【課題・提出物】なし		
【第3学期の評価方法】			
①実技試験（60%）			
バドミントン			
<ul style="list-style-type: none"> ・サーブ、スマッシュ等の試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。 			
②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%)			
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 			
【年間の学習状況の評価方法】 学年末の評定（評価）は1学期・2学期・3学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況（40%） 知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	<p>運動の合理的，計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに，目的に応じた技能を身に付けている。</p> <p>1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。</p> <p>2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており，ゲームに生かすことができる。</p> <p>3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い，攻防を展開できる技能を有する。</p> <p>4. ミニゲームの審判を務めることができる。</p>	<p>実技テスト</p> <p>確認テスト</p> <p>記録</p> <p>観察</p>

<p>思考・判断・表現</p>	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それを他者に伝えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己や仲間の状況に応じて体力を高める運動を継続するための取り組みを工夫し、伝えようとしている。 2. 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。 	<p>記録 観察</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席が少なく、授業への参加態度が良好である。 2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし、学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。 3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。 	<p>記録 観察</p>

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応する。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
保健	1	2	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート（大修館書店）

1 教科目標

健康・安全について理解を深めるようにし、自らの健康に興味を持ち、適切に管理していく能力を育てる。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	3単元 生涯を通じる健康 1.ライフステージと健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康の関連について理解する。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について理解する。
	5	2.思春期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて理解する。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について理解する。
		3.性意識と性行動の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・性意識の男女差について理解する。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを、理解する。
	6	4.妊娠・出産と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・出産の過程における健康課題について理解する。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。
		5.避妊法と人工妊娠中絶	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解する。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について理解する。
		6.結婚生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の発達と結婚生活の関係について理解する。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動を理解する。
	7	7.中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢にともなう心身の変化について理解する。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて理解する。
【課題・提出物】 <input type="checkbox"/> 保健ノート <input type="checkbox"/> 授業プリント <input type="checkbox"/> 課題レポート			

	【1 学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート，プリント，レポートなどの提出状況）
--	--

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	8.働くことと健康	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義と健康とのかかわりについて理解する。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について理解する。
		9.労働災害と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害の種類とその原因について理解する。 ・労働災害を防止するために必要なことを理解する。
	10	10.健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解する。 ・余暇を積極的にとることの意義について理解する。
		4 単元 健康を支える環境づくり	
		1.大気汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因と健康への影響について理解する。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について理解する。
		2.水質汚濁， 土壌汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・水質汚濁， 土壌汚染の原因とその健康影響を理解する。 ・大気， 水， 土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて理解する。
	11	3.環境と健康にかかわる対策	<ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解する。 ・産業廃棄物の処理について理解する。
		4.ごみの処理と上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの処理の現状やその課題について理解する。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を理解する。
	12	5.食品の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と健康とのかかわりについて理解する。 ・食品の安全性に関する今日的課題について理解する。
		6.食品衛生にかかわる活動	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解する。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について理解する。

【課題・提出物】○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【2学期の評価方法】○定期試験 ○平常点（保健ノート，プリント，レポートなどの提出状況）			
月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1 7.保健サービスとその活用 8.医療サービスとその活用 9.医療品の制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の役割について理解する。 ・保健サービスの活用について理解する。 ・わが国における医療保険のしくみについて理解する。 ・さまざまな医療機関の役割について理解する。 ・医薬品の正しい使用法について理解する。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて理解する。 	
	2 10.さまざまな保健活動や社会的対策 11.健康に関する環境づくりと社会参加		<ul style="list-style-type: none"> ・国際機関・民間機関などの保健活動について理解する。 ・行政機関による社会的対策について理解する。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて理解する。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを理解する。
	3		
【課題・提出物】○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【3学期の評価方法】○定期試験 ○平常点（保健ノート，プリント，レポートなどの提出状況）			
<p>【年間の学習状況の評価方法】 100点法にて評価（試験・平常点で総合評価する）</p> <p>(1) 各学期評価【試験における素点の80%＋平常点20%にて評価】 (2) 年度末評価【（1学期素点＋2学期素点＋3学期素点）÷3＋年間平常点にて評価】 (3) 平常点の算出 授業に対する取り組み，小テスト，動画視聴，まとめレポート等で算出。 知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。</p>			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験において，事実的な知識の習得を問う問題と，知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する ・授業中に知識や技能を用いる場面を設定する。実習や体験を行う 	定期試験 小テスト 観察
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・論述やレポートの作成，発表。グループでの話し 	レポート

	合いなどを行う	観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポートによる記述 ・授業中の発言 ・自己評価 	観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

質問に関しては、随時教科担当者が対応する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語コミュニケーションⅡ	5	2	I コース
教科書名	BIG DIPPER English Communication II		(数研出版)
副教材名	BIG DIPPER English Communication II ベーシックノート		(数研出版)
	英単語ターゲット R 英単語ターゲット 1200 レベル		(旺文社)
	Listening Scope Basic		(いいずな書店)
	大学入試 4 技能試験対応 コア表現トレーニング 上級編		(旺文社)
	Pair & Share 2		(いいずな書店)

1. 科目目標

学習のねらい

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas? 海外のユニークな学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を学習する。 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書く能力を身に付ける。 受動態、不定詞、助動詞＋受動態を理解する。
	5	Lesson 2 Is Seeing Believing? 楽しい「だまし絵アート」	
	《1 学期中間試験》		
	6	Lesson 3 Do You Get Enough Sleep? 良い睡眠をとるには	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法過去、関係代名詞 what, 関係副詞 when, where を理解する。
	7	Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? 英語の多様性について	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞の継続用法 which, 関係副詞 why を理解する。 SVO₁O₂ (O₂=that 節) を理解する。
《1 学期期末試験》			

	【課題・提出物】 ・ベーシックノート ・単語テスト	【1学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Lesson 5 Universal Design: Convenient for All ユニバーサルデザインの役割と課題	・分詞構文，進行形＋受動態を理解する。 ・関係副詞 where の継続用法を理解する。
	10	Lesson 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer 81歳でゲームアプリをつくった若宮正 子さん	・SVC（C＝現在 / 過去分詞）を理解する。 ・受動態の分詞構文を理解する。 ・助動詞＋完了形を理解する。
	《2学期中間試験》		
	11	Lesson 7 Learning from Nature 自然界の生物をヒントにして開発され たもの Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food 保存食の魅力と可能性	・省略表現，動名詞の意味上の主語，未来進行形， 完了形＋不定詞を理解する。 ・仮定法過去完了，仮定法の表現(as if / without) を理解する。 ・形式目的語 it の表現（to 不定詞 / that 節）を 理解する。
	12	《2学期期末試験》	
	【課題・提出物】 ・ベーシックノート ・単語テスト	【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）	
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone? シェアリングエコノミーとは	・未来完了，無生物主語構文を理解する。 ・SVC（C＝that 節）を理解する。
	2	Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 知られざる世界の砂不足について	・関係副詞 when の継続用法を理解する。 ・SVC（C＝that 節），未知語の推測を理解する。
	3	《3学期期末試験》	

【課題・提出物】 ・ベーシックノート ・単語テスト	【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（年間5回の定期試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期の平常点の平均点）	

3. 観点別評価内容および評価方法

項目	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・側注/脚注の語彙や言語材料（重要文法事項）を理解している。 ・語彙の意味，言語材料の用法の理解をもとに，内容を読み取る技能を身に付けている。 ・各 Part 本文の内容について，事実や自分の考えを整理し，語彙や語句，言語材料を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 	授業の参加態度(発表) 単語テスト 定期試験 提出物
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて理解を深めるために，本文の内容を読み取り，概要や要点を把握している。 ・トピックについて学習した語句や文法事項を用いて，自分の意見を話したり書いたりすることを身に付けている。 	授業の参加態度(発表) 単語テスト 定期試験 提出物
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて理解を深めるために，本文の内容を読み取り，概要や要点を把握しようとしている。 ・本文の内容について学習した語句や文法事項を用いて，自分の意見を話したり書いたりすることを身に付けようとしている。 	授業の参加態度(発表) 単語テスト 定期試験 提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

英語を身につけるためには根気のいるような地道な努力が欠かせません。ターゲットや本文に出てくる単語・熟語を繰り返し学習すること，各 Part で扱われる重要構文を理解すること，授業や家庭学習で音読に取り組むことなどを継続して行えるかがカギになります。また，一度や二度では覚えることや定着させることは難しいので，定期的に何度も復習することを心がけましょう。

授業は受け身にならずに積極的に発言をして，友人と協力して答えを導き出す努力をしていくことが大切です。特に，SW の授業はネイティブの先生の授業を受けられる機会なので，疑問に思うことや伝えたいことの表現に困った時は積極的に質問してください。

皆さんの英語力向上に向けて先生たちと一緒に頑張りましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
論理・表現Ⅱ	2	2	Iコース

教科書名 Harmony English Logic and Expression II (いっいずな書店)

副教材名 Harmony English Logic and Expression II All-in-One Workbook (いっいずな書店)

Harmony English Logic and Expression II Grammar Book (いっいずな書店)

Harmony 総合英語 (いっいずな書店)

Scramble 英文法・語法 Basic (旺文社)

1. 科目目標

「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	【Harmony English Logic and Expression I】 Lesson 17 Food Waste データを比較しながら身近な社会問題について話す	・最上級の表現，比較級を使った表現について理解する。
	5	Lesson 18 Water Problem 違う人の立場に立って話す	・仮定法過去やその他の仮定表現について理解する。
	《1学期中間試験》		
		【Harmony English Logic and Expression II】 Lesson 1 During Spring Vacation 最近の出来事について説明する	・現在形・過去形・未来の表現について理解し，それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。
	6	Lesson 2 My Favorite Star 有名人の経歴について説明する	・現在完了形 / 過去完了形について理解し，それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。
		Lesson 3 My Career Path できること・すべきことについて話す	・助動詞について理解し，それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。
《1学期期末試験》			
【課題・提出物】 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト			
【第1学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）			

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	Lesson4 Talking about Japanese Culture 日本の文化・ものについて話す	・受動態について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
		Lesson5 Disaster Prevention 防災について考え	・不定詞の3つの用法について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	10	Lesson6 Town Planning 都市構造について議論する	・不定詞を使った表現について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	《2学期中間試験》			
		Lesson7 Foods and Culture 食について考える	・動名詞について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	11	Lesson8 ICT and Universal Design ICT とバリアフリー社会について考える	・分詞について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
		Lesson9 World Peace 世界平和に貢献した人々について知る	・関係代名詞について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	12	Lesson10 Volunteering Abroad 世界の国々について知る	・関係副詞について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	《2学期期末試験》			
	【課題・提出物】・夏期休業期間中の課題 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト			
【第2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）				
	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	Lesson11 Health and Lifespan 健康と生活について考える	・比較について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	2	Lesson12 If the World Were ... さまざまな立場に立って考える	・仮定法について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	3	Lesson13 Culture and Perception 文化と認知の関係について知る	・否定 / 疑問文について理解し、それらを用いて正しく英文を書くことや考えを発表することを身に付ける。	
	《3学期期末試験》			
【課題・提出物】 ・冬期休業期間中の課題 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト				
【第3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）				
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（5回実施される定期試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期の平常点の平均点）				

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・習得すべき知識や重要な概念を理解している。 ・習得すべき知識や重要な概念を既存の知識及び技能と関連付けて活用したりする中で、概念として理解したり、技能を身に付けている。 	(a) 授業中の活動への取り組み状況・参加姿勢 (b) ノート・ワーク等の提出物 (c) 小テスト・定期考査等のペーパーテスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。 	

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

英語の力をつけるために英文法を理解することは必要不可欠です。授業に集中して取り組み、ワークブックなどを用いて復習に力を入れましょう。また、疑問に思うことや理解できていない文法事項はそのままにしないで、必ず担当教員に質問してください。論理表現Ⅱでは1年生の時に学んだ文法の知識などを活かして発展的な内容にも取り組んでいくようになります。3年生の4月・9月の基礎学力到達度テストでも結果を残せるように頑張りましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
家庭基礎	2	2学年	I・IIコース

教科書名 気づく力 築く未来 家庭基礎 (実教出版)

副教材名 生活学 N a v i 資料+成分表 (実教出版)

気づく力 築く未来 授業ノート (実教出版)

1. 科目目標

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	ガイダンス・食物アレルギーについて 第1章 これからの人生について考えてみよう 1 自分の未来予想図を描こう 2 これからの人生をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義や内容、持ち物、評価の方法などを理解する。食物アレルギーについて把握する。 ・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ・人生設計に必要な要素を理解する。
	5	第2章 自分らしい生き方と家族 1 自立と共生 2 ライフキャリア 3 共に生きる家族 4 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・自立の種類と具体的な内容を把握する。 ・男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解する。 ・労働の種類と意義について多面的に検討する。 ・家族・家庭の意義や機能について理解する。 ・現在の家族の抱える課題などを理解する。 ・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。
	6	第3章 子どもとかかわる 1 子どもとは ■DVD 視聴 「生命の誕生2」 ○妊娠疑似体験 2 子どもの発達 ○育児体験 3 子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・育児を学ぶ意義、10代の健康が将来生まれてくる子どもに繋がっていることを理解する。 ・妊娠中の女性の大変さを知り、パートナーとして助け合うことの大切さに気づく。 ・子どもの心身の発達は身近な大人との関わりによって発達することを理解する。 ・新生児の抱き方、ミルクの与え方、げっぷのさせ方、オムツの取り替え方を知る。 ・子どもの食事や衣服、遊びを理解する。

	6	<p>4 子どもをはぐくむ</p> <p>5 子どものための社会福祉</p> <p>第4章 高齢者とかかわる</p> <p>1 高齢社会に生きる</p> <p>■DVD視聴 「高齢者の特徴」</p> <p>2 高齢期を知る ○高齢者疑似体験</p> <p>3 高齢期の自立を支える</p> <p>4 高齢社会を支えるしくみ</p> <p style="text-align: center;">1 学期期末試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを生み、育てる意義を理解する。 ・親子関係の課題を理解し、解決策を考える。 ・子育てのための社会的支援や子どもの権利と福祉の歩みを理解する。 ・高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも深める。 ・心身の特徴や生活を理解し、高齢期の心身の変化による不安に気づき、改善策を考察する。 ・要介護の高齢者に必要な心がけを理解する。 ・介護保険制度について理解する。 ・介護をめぐる課題について理解する。
	7	<p>■DVD視聴</p> <p>「ホームプロジェクト」</p> <p>☆夏休み課題「ホームプロジェクト」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に家庭生活の中の問題を見つけ、改善方法を考えて実施する。研究した内容をレポートにまとめる。
【課題・提出物】 ・学習ノート、小テストなど			
【第1学期の評価方法】			
①定期試験の成績（60%）→知識・理解の確認をする。			
②学習態度等の平常点（40%）→実習課題等の提出状況（30%）、授業態度（10%）を評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>○ホームプロジェクト発表会</p> <p>第5章 社会とかかわる</p> <p>1 支え合って生きる</p> <p>2 共生社会を生きる</p> <p>第7章 衣生活をつくる</p> <p>1 人と衣服のかかわり</p> <p>2 衣服の素材の種類と特徴</p> <p>3 衣服の選択から管理まで</p> <p>■DVD視聴</p> <p>「衣服と装いの科学」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会を通して、実施内容を反省・評価する。また他者の発表を聞き、参考にする。 ・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 ・協働やボランティア活動に関心を持てるようする。 ・衣服の起源、機能や安全性を理解する。 ・繊維の種類と特徴、衣服素材の性能を理解する。 ・衣服の表示内容やその意味を理解し、購入から洗濯などの管理に役立てる。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について理解し、衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。
	10	<p>第6章 食生活をつくる</p> <p>1 日本の食文化の形成</p> <p>2 私たちの食生活</p> <p>○調理実習の説明・栄養価計算</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化の成り立ち、和食の特徴を理解する。 ・自身の食生活の現状把握と課題を知る。 ・栄養価計算の方法を知り、実践する。

10	●第1回 調理実習、一汁二菜の献立 「魚のなべ照り焼き、すまし汁、青菜のごまあえ」	・調理を通して基礎的な技術を身に付ける。 ・切り身魚の扱い方、和風だしの取り方、青菜のゆで方を学ぶ。
11	3 栄養と食品のかかわり 4 食品の選び方と安全 5 食事の計画と調理 6 これからの食生活を考える	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品について確認する。 ・旬の食材や表示の読み方を理解する。 ・食中毒の予防法、食品添加物を理解する。 ・年齢や性別ごとに異なる食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解する。 ・日本の食料自給率の現状を知り、日本の食糧事情を解決するためにできることを考える。 ・食の安全と環境に配慮した食生活を送ることができるようになる。
12	○調理実習の説明・栄養価計算 ●第2回 調理実習、中華の献立 「回鍋肉、粟米湯、乃豆腐」	・炒め物のコツ、片栗粉でのとろみのつけ方、寒天の扱い方を理解する。
【課題・提出物】 ・学習ノート、小テスト、ホームプロジェクト、調理実習の記録など		
【第2学期の評価方法】 ①定期試験の成績（60%）→知識・理解の確認とともに、調理に関する基礎的知識も出題する。 ②学習態度等の平常点（40%）→実習課題等の提出状況（30%）、授業態度（10%）を評価する。		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 第8章 住生活をつくる 1 人間と住まい 2 住まいの文化 3 住まいを計画する ■DVD 視聴 「見つけよう、マイルーム」	・住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどう関わっているか理解する。 ・日本の伝統的な住居の特徴や暮らし方の工夫を見つける。 ・日本の住居の変遷、生活様式を理解する。 ・生活行為と住空間のかかわりや、住空間の違いによって住まいの居住性が異なることを理解する。平面図の基礎的知識を学び、平面図から住空間が読み取れるようになる。
	2 4 健康に配慮した快適な室内環境 5 安全な住まい 第9章 消費行動を考える 1 消費行動と意思決定 2 消費生活の現状と課題	・健康的な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。 ・安全で長く住み続けるために必要な住居の管理の方法、防災対策について理解する。 ・家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。 ・消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。 ・契約、多様な販売方法や支払方法、問題商法

2	<p>■DVD 視聴</p> <p>「消費生活とトラブル防止」</p> <p>3 消費者の権利と責任</p> <p>4 ライフスタイルと環境</p> <p>第10章 経済的に自立する</p> <p>1 暮らしと経済</p> <p>2 将来のライフプランニング</p>	<p>について理解する。また、被害にあった場合の解決方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任について理解する。 ・資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行できる。 ・家計と国民経済、国際経済の関係性に気づく。 ・家計の構造を理解し、適切な家計管理ができるようにする。 ・金融商品を知り、生活設計とかかわらせて、長期の経済設計の必要性について理解する。
3	<p>学年末試験</p>	
<p>【課題・提出物】 ・学習ノート、小テストなど</p>		
<p>【第3学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績（60%）→知識・理解の確認をする。</p> <p>②学習態度等の平常点（40%）→実習課題等の提出状況（30%）、授業態度（10%）を評価する。</p>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】 ・学年末の成績は、各学期の総合成績を総合して評価する。</p>		

3. 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>家族・家庭の意義、また社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらにかかわる技能を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・定期試験 ・小テスト
思考・判断・表現	<p>課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトの発表 ・グループワークの参加
主体的に学習に取り組む態度	<p>課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習の記録や疑似体験ワークシート ・ホームプロジェクトの記録 ・学習ノート ・小テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習について）

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族や家庭生活について関心を持ち、その中にある問題点を把握し、その解決策を考える力を身につけましょう。 ・家庭科の学習を実際の生活と結びつけ、実践的・体験的な学習活動やグループ活動へ積極的に取り組みましょう。 ・衣食住に関する知識や技術を身に付け、ホームプロジェクトを充実させましょう。 <p><定期試験に向けて></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業の内容をしっかりと復習する。（学習ノートやプリント等を見直すこと） 2、提出物は期限を守って提出すること。
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
情報 I	1	2 学年	I・IIコース

教科書名 高校情報 I JavaScript (実教出版)

副教材名 ポイント整理 情報モラル (数研出版)

1 科目目標

- ①効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- ②様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- ③情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ガイダンス ● PC・教室利用について ● PCの個人設定 ● タイピング 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCの個人設定を行い，利用環境を整える。 ・タイピングソフトの利用の仕方を確認し，タイピングに取り組む。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報の表現の工夫 ● 文書作成ソフトの操作方法について ● 課題の保存と提出の操作方法について 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書作成ソフトの操作方法を学び，表現の工夫を理解する。 ・課題の取得・保存・提出をできるようにする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2進数と10進数・16進数 ● 2進数とは何か ● 10進数とは何か ● 16進数とは何か ➤ コンピュータの構成とインターネットの利用について ● コンピュータを構成している要素について理解する ● インターネットの利用の仕方について ➤ 情報のデジタル化① ● アナログとデジタル ● 情報量を表す単位について ● bitとは何か 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータにおける数値の取り扱いは，2進数・16進数で行われることを理解する。 ・2進数・16進数を用いた数の表現について理解する。 ・コンピュータはハードウェアとソフトウェアから構成されていることを理解する。 ・コンピュータの五つの機能について理解する。 ・インターネット利用の注意点を理解する。 ・アナログとデジタルの相違を理解する。 ・コンピュータで扱うデータの最小単位の bit を理解する。
	7	1 学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・情報量の単位の変換を理解する。

<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題</p>			
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 1学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>			
月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報のデジタル化② ● 音声のデジタル化の仕組み ● 音楽 CD の記憶の仕組み ➤ 情報のデジタル化③ ● PC での画面表示と解像度 ● 光の 3 原色 ● 画像の諧調と情報量 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を 2 進数であらわされる数値データに変換する過程を理解する。 ・ コンピュータにおける画像の表現方法を理解する。 ・ データの様々な圧縮形式について理解する。 ・ 情報社会に関わる様々な法律の名称とその役割を学び，情報を保護する必要性や，個人が担う責任について理解する。 ・ プレゼンテーションソフトの操作方法を学ぶ。 ・ プレゼンテーションを通し，情報の発信の仕方を学ぶ。 ・ Web ページが HTML という言語によって記述されていることを学ぶ。 ・ 実際に簡単な自己紹介の Web ページを作成することによって，HTML の基本的なタグを理解する。 ・ HTML の様々なタグを学ぶ。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報の圧縮 ● 情報の圧縮の考え方について ● 音・画像・動画の圧縮 ➤ 個人情報と知的財産権 ● 個人情報の取り扱いについて ● 知的財産権について ● プレゼンテーションソフトを用いたグループ演習 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ➤ HTML 文の書き方① ● Web ページとは何か ● Web ページ作成の準備 ● 基本的なタグ 	
	12	<ul style="list-style-type: none"> ➤ HTML 文の書き方② ● 様々な HTML タグについて ● カラーコード 	
	2 学期期末試験		
<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題</p>			
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 2学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	▶ HTML を用いたグループによる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な HTML のタグを学ぶ。 ・情報を発信することの責任について理解する。 ・他者と協力して情報発信をすることを学ぶ。
	2	発信	
	3	● グループ演習 学年末試験	
		【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題	
		【3学期の評価方法】 ① 学期末試験 50% 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。 ② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。 ③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。	
		【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末と3学期末の成績を統合して評価する。	

3 観点別評価内容および評価方法

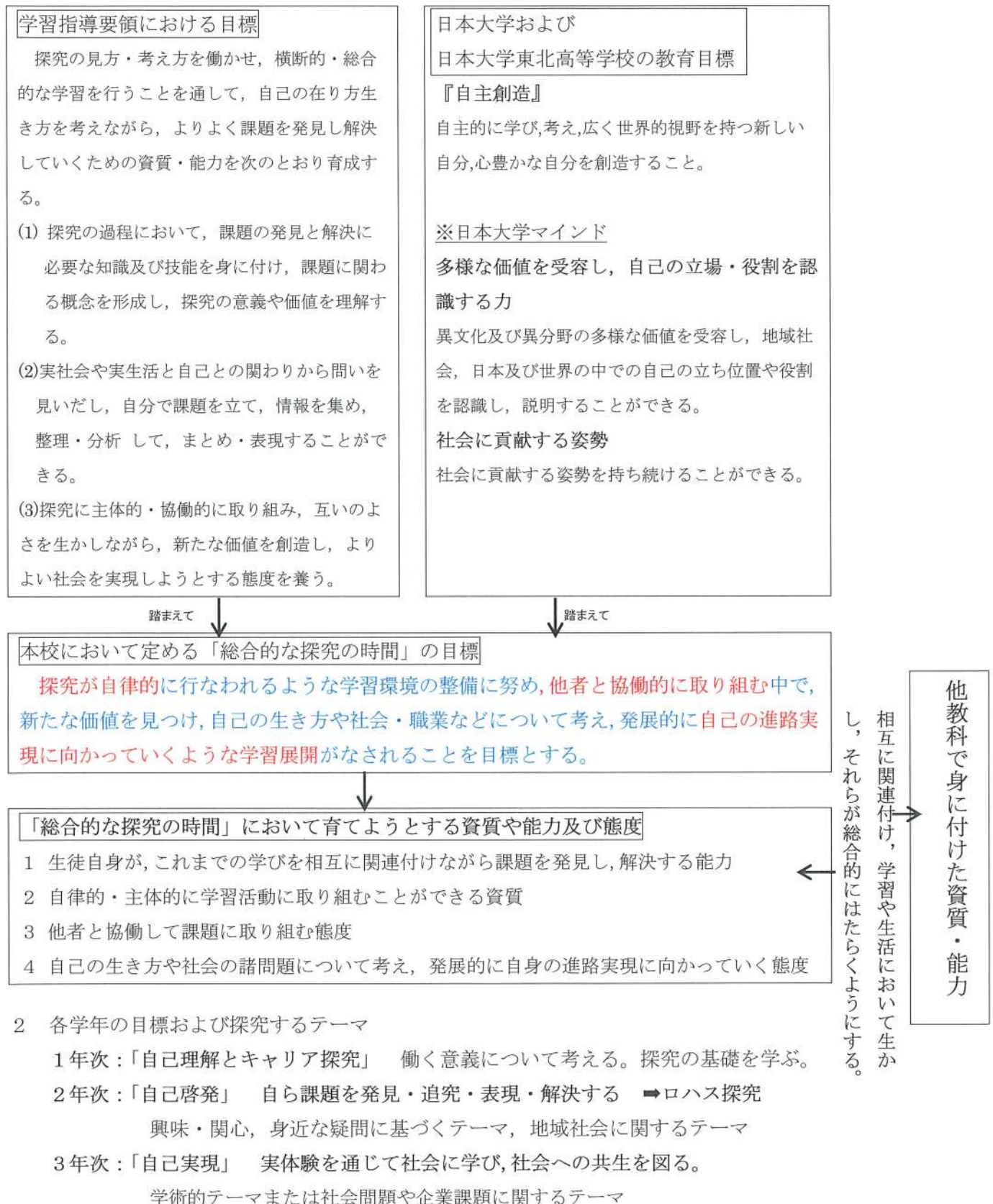
	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し，技能を身に付けているとともに，情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート ・実技演習課題 ・学習活動の観察
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技演習課題 ・学習活動の観察
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の取り組み ・タイピングテスト ・学習活動の観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- ・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけ，ブラインドタッチに挑戦しましょう。
- ・実技については，毎時間課題を課します。時間ごとの内容を確認するのでしっかり覚えましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
総合的な探究の時間	1	2 学年	I

1 科目目標



3 学習計画及び評価方法

学期	回	活動内容	活動のねらい
1 学期	1	NOLTY 探究プログラム【発表】	1年次の成果を個人で発表する
	2	NOLTY 探究プログラム【発表】	1年次の成果を個人で発表する
	3	振り返り	1年次の活動を振り返り活動の成果を確認する。
	4	(ロハス)探究オリエンテーション	ロハス探究の概要を理解する。
	5	探究のテーマ提案①	取り組んでみたいテーマを考える。
	6	探究のテーマ提案②	テーマを共有する。
	7	取り組むべき探究テーマ決定	自己の取り組むテーマを決める。
2 学期	8	(ロハス)探究ガイダンス	班編成、テーマに対する問の作成
	9	ファーストコンタクトに向けた準備	ファシリテータとの顔合わせ
	10	班別の探究活動①	課題設定
	11	班別の探究活動②	情報収集
	12	班別の探究活動③	情報収集
	13	班別の探究活動④	整理分析
	14	班別の探究活動⑤	まとめ
	15	班別の探究活動⑥	表現 (プレゼン動画作成)
3 学期	16	班別の探究活動⑦	表現 (プレゼン動画作成・共有)
	17	代表班決定	プレゼン動画共有 (他班・代表班)
	18	自己の探究についての振り返り	講評をもとにした振りかえり
	19	(ロハス)探究プレゼン大会	探究成果の共有
	20	(ロハス)探究プレゼン大会振り返り	発表から得られたことの確認
	21	A 4版 1枚成果物の作成	人に伝えることを意識し探究の内容を簡潔にまとめる。
	22	探究のまとめ	全体の振り返り

3-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄えなど、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、まとめ・発表している。	討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価。
主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。	学習や活動の状況などの観察記録による評価。論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作

		物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。
--	--	---

3-(2) 評価基準 (ルーブリック)

	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
知識・技能 知識・技能	必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。	必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。	必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。
課題を発見する力 思考・判断	自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。	自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。	自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。
課題を解決する力 思考・判断	データや情報を適切に収集し、整理・分析をすることができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。	データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠けた部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。	データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。
考えを他者に伝えることができる力 表現	論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。	論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。	発表するための準備が不十分である。
自立的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度	課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。	課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。	活動に意欲的に取り組むことができない。
他者と協働する力 主体的に学習に取り組む態度	班員と目標を共有し、価値観や意見の異なる人の意見も尊重し協力して活動できる。	班員と協力して活動できる。	班員と協力する姿勢が見られない。